



英語学専攻には、語学、文学、通訳翻訳学の3つの領域があります。

語学領域では、英語を対象言語とし、言語知識体系、認知プロセス・対人交渉など、ことばとコミュニケーションにかかわるさまざまな局面について研究します。

文学領域では、主にイギリス・アメリカその他の英語圏の文学作品を対象にして、そこに用いられた様々な「表現」や「手法」の特徴を手がかりに、作家の思想や世界観について、作品の背景をなす社会や歴史、他の芸術との関わりも視野に入れながら、多様な角度から研究をすすめます。

通訳翻訳学領域では、実際の通訳・翻訳データを分析して理論的考察を加えることや、通訳・翻訳の評価の問題、認知科学的过程の解明などを研究します。

The English Studies Program consists of a Language Unit, Literature Unit, and Interpreting and Translation Unit.

In the Language Unit, students conduct research on various aspects of language and communication, including language knowledge systems, cognitive processes and interpersonal negotiations.

In the Literature Unit, which mainly focuses on literary works in the U.K., the U.S.A. and other English-speaking countries, students conduct research on the thoughts and world views of authors, with their sights also on the intersection of literature with society, history, and other arts.

In the Interpreting and Translation Unit, students offer theoretical speculation by analyzing actual interpreting and translation data, and conduct research on issues of evaluation of interpreting and translation, in addition to clarification of cognitive science processes.

## 授業担当専任 スタッフ Academic Staff Profiles

### 語学 Languages

本多 啓 (ほんだ あきら) Akira HONDA  
●教授/Professor

認知言語学。英語および日本語の文法について認知言語学の観点から研究しています。とくに生体心理学、発達心理学、社会心理学などの知見を踏まえ、人が環境および他者と関わる関わり方の現れとしての言語の姿を明らかにしていく試みに携わっています。

Cognitive Linguistics



那須 紀夫 (なす のりお) Norio NASU

●教授/Professor

理論言語学、統語論。(i) 移動要素の意味解釈および音声化のパターンに関する研究、(ii) 文の周縁部の構造に関する研究。

Theoretical linguistics; syntax. Current research topics include: (i) semantic interpretation and phonological realization of copies; (ii) structure of peripheral parts of sentences



### 文学 Literature

David Lee FARRAH (デイヴィッド・リー・ファラ)

●教授/Professor

American Poetry, Creative Writing, Steinbeck. Current writing and research focuses on the physical nature of poetry as it is expressed through its intersection with the visible landscape, as well as the non-visible, underlying quantum world.

山口 治彦 (やまぐち はるひこ) Haruhiko YAMAGUCHI

●教授/Professor

談話分析、語用論。なかでも英語や日本語における引用・話法の研究やさまざまなディスコース・ジャンル(ジョーク、漫画、小説など)のテキスト分析が、中心的な研究課題である。

Pragmatics and discourse analysis.

Franklin CHANG (フランクリン チャン)

●准教授/Associate Professor

言語心理学の方法で大人と子供が構文や意味をどのように学習し、使用するかに研究しています。これらの認知システムの特徴を理解するため、実験、コンピューティショナル・モデル、コーパス研究などを手段としています。

I use psycholinguistic methods to study how children and adults acquire and use syntactic and semantic knowledge. To study these cognitive systems, we use various means such as experiments, computational models, and corpora research.

光永 雅明 (みつなが まさあき) Masaaki MITSUNAGA

●教授/Professor

ヴィクトリア時代を中心とする、イギリス社会史および社会思想史  
Modern British History (Victorian Era; Social History; Intellectual History)

難波江 仁美 (なばえ ひとみ) Hitomi NABAE

●教授/Professor

専門はアメリカ文学・比較文学。19世紀末から20世紀初頭、大きく変動する近代アメリカ社会に敏感に反応し、アメリカから脱出して国籍離脱者として一生を終えた作家たちを中心に研究している。対象とする作家には、アメリカからヨーロッパへと向かったヘンリー・ジェイムズやイーディス・ウォートン、あるいは東洋(日本)へと向かったラファディオ・ハーンなど。テーマとしては、境界、異界、幽霊、物語。

19th-century, American Literature and Comparative Literature

新野 緑 (にいのみどり) Midori NIINO

●教授/Professor

イギリス小説研究。ヴィクトリア朝を中心に、18世紀から20世紀に至るイギリス小説を、小説というジャンルの成立と発展、カンントリーハウスの表象、作家の自己成型などの観点から考える。時代の文化的背景と作家の個性との交差するダイナミックな結節点としての作品のあり方を明らかにしたい。

British novels and Victorian studies.



西川 健誠 (にしかわ けんせい) Kensei NISHIKAWA

●教授/Professor

英米文学におけるキリスト教。主に17世紀イギリスの宗教詩を研究。  
Seventeenth-Century British Poetry (Donne, Herbert, Milton);  
Twentieth-Century American Poetry (Wilbur, Bishop)

吉川 朗子 (よしかわ さえこ) Saeko YOSHIKAWA

●教授/Professor

イギリス・ロマン派詩人ワーズワスを中心とする近現代英米詩。現在は、ワーズワスの受容のされ方を、文学観光などの文化的・社会的現象との関わりの中から探っている。

Modern English poetry, especially British Romantics, including William Wordsworth. Currently I research on the popular reception of Wordsworth through exploring cultural and social phenomena such as literary tourism and environmental movement.

## 通訳翻訳学 Interpreting and Translation

長沼 美香子 (ながぬま みかこ) Mikako NAGANUMA  
●教授/Professor

通訳と翻訳の理論・実践・教育を射程に入れて研究に取り組んでいる。長年にわたり積み上げてきた実践経験を理論的な研究へと開き、教育へと架橋することを試みる。近年では特に、日本の近代を翻訳学の観点から問題化し探究する。

My research includes theory, practice and education in interpreting and translation. Working in the field of education, I have been exploring theoretical studies based on the wide range of my practical experiences as a professional interpreter and translator. Among my current research topics is to problematize Japan's modernization from the view point of Translation Studies.



繁沢 敦子 (しげさわ あつこ) Atsuko SHIGESAWA  
●准教授 / Associate Professor

新聞記事やルポルタージュ、各種報告書について、草稿などの一次史料と最終発行物を比較検討し、言説が作られていく過程の分析を行っている。メディアによる報道やメディアに対する検閲のほか、世論や世論操作など、言説の形成に影響を与える要素の働きについて考察し、一つの言説が現れた背景の解明を試みる。

My research focuses on analysis of the process of formation of a narrative by comparing manuscripts and other primary sources with their final forms—published newspaper articles, reportage and reports. By examining the mechanism of the work of each element that influences the formation, such as the media coverage and the censorship of the media, as well as the public opinion and the manipulation of the public opinion, I attempt to explore the background from which the narrative was born.

## 最近の修士論文等のテーマ Recent Master's Thesis Subjects

- ・翻訳をめぐるマネジメントとストラテジ
- ・Reflecting on the Personal Development of Competence in Translation
- ・Retranslation revisited in a Japanese context: A case of *The Chronicles of Narnia*
- ・Audience Focused Translation: An Analysis of Two Mediums
- ・Translation with Commentary
- ・Reading Effects on Speech Production in Japanese English Learners
- ・Pound's Cantos - the Relationship between Time and Heroic Figures
- ・Applications of Foreign Language Teaching Methods: Observations in two cases for child and adult learners
- ・English as a lingua franca in language education in Japan

## 院生紹介 Message from a Student



三附 魁(2年)  
Kai MITSUOKA

### なぜ修士課程に進学しようと思いましたか？

もっと英語学について学びたい！というのが一番の動機でした。そこで専門知識をより深く身につけるため、もっと研究をしたいという気持ちから大学院への進学を決めました。

### 神戸市外国語大学の修士課程を選んだ理由と受験対策

私は他大学から神戸市外大へと進学しました。まずはホームページで自分の学びたい分野が学べるかを調べました。神戸市外大の魅力は英語学の各分野に専門の先生がおり、様々な分野を幅広く学ぶことができるところです。説明会にも足を運び、実際に専攻の教授と会うことで、授業の様子などを知ることができました。事務の方々もとても親切でさらに詳しい情報を得ることができました。受験対策としては専門書を読んで知識を深めることと、過去問を使って対策をしました。

### 授業の様子・雰囲気

大学院での授業は少人数で行われることが多いので、質問をしたり、自分の意見を言ったりする機会が多いです。また、分からないことがあれば質問し、理解できるまで優しく、丁寧に教えてくださいました。深い学びにつなげることができています。どの授業もとても面白く、修士課程に進んでよかったと思える学生生活を過ごしています。

### 修士課程進学を考えている方にメッセージをお願いします。

将来、研究者になりたいという明確な目標を持っている方もいれば、私のようにもっと勉強したいというような方もいると思います。神戸市外大というのは目的にも合うようなカリキュラムになっています。修士課程に進むかどうか迷っている方はぜひ進学してください。神戸市外大にはそのためのすばらしい環境が整っているため、様々なことにチャレンジしましょう。

## モナッシュ大学とのダブル・マスタープログラム Double Master's Degree Program with Monash University

2015年4月より本学大学院とモナッシュ大学(オーストラリア)の大学院との間でダブル・マスタープログラムを開始しました。対象となる専攻は、大学院修士課程・英語学専攻の「通訳翻訳学領域」です。

本学大学院の修士課程(課題研究コース)に入学後、1年目をモナッシュ大学の大学院で、2年目を本学大学院で学ぶことにより、2年間の課程修了時に本学大学院とモナッシュ大学大学院の2つの修士号の学位を同時取得できます。詳細は本プログラムのWebページを参照してください。

KCUFS offers a double Master's degree program with Monash University (Australia) in the field of interpreting and translation. In this program, students spend the first year at Monash University and the second year at KCUFS, and are awarded Master's degrees from both upon completion.

「ダブル・マスタープログラム(モナッシュ大学)」

<http://www.kobe-cufs.ac.jp/graduate/guide/dmdprogram.html>



## モナッシュ大学ダブル・マスタープログラムを修了して

通訳・翻訳を学びたいと考え他の様々な選択肢とも比較をした結果、神戸市外大の大学院を選びました。通訳翻訳領域のダブル・マスタープログラムでは、修士課程の1年目をオーストラリアのモナッシュ大学で学ぶことができます。通訳・翻訳の技術は日本の民間の養成学校で身につけることもできますが、そういった技術の前提となる英語力の向上、そして異文化理解に目を向けた時に、海外の大学院で勉強できる機会はとても貴重であると考えました。モナッシュ大学には、言語ペア別の授業と、他の言語ペアの生徒と一緒に受講する授業があります。日英言語ペアの授業では、他の生徒や先生と一緒に、より適切な通訳・翻訳を求めて議論することが多くありました。一方、他の言語ペアの生徒と一緒に授業では、理論を学んだり、より一般的なプロとして働く姿勢、通訳を行う際のメモの

取り方や声の大きさ、スピードなど、言語を限定せず必要な技術を学びました。学内での授業の他にも、通訳者が入った裁判の傍聴をしたり、病院での医療通訳の見学など、実際の現場を見る貴重な機会も得られました。神戸市外大では、地元新聞のネット記事を翻訳するグループプロジェクトに取り組みました。私の役割は翻訳ではなくプロジェクトのマネジメントでしたが、複数の参加者が存在するグループプロジェクトにおけるマネジャーの仕事の内容や難しさを知ることができました。通訳の授業では、BBCのライブニュースを通訳素材として利用し、通訳ブースに入って同時通訳の練習をしました。とても難しく満足にできたことは一度もありませんでしたが、ブースに入りレベルの高い素材を用いることで、常に緊張感をもって通訳の練習に取り組むことができました。

## 院生紹介 Message from a Student



佐藤 麻美  
(2018年度修了生)  
Mami SATO